

理科の復習プリント 3

取り組んだ日

月 日 () 名前【

】

○もののとけ方について説明しています。

- (1) 食塩やさとうを水に入れてかき混ぜると、つぶが見えなくなり、液がすきとおって見えるようになります。このように、水の中でもものの形が見えなくなるほど(①)なって液全体に広がることを、ものが水に(②)といいます。また、ものがとけた液のことを(③)といいます。
- (2) ものが水にとけて見えなくなったとき、そのものは、(④)。
- (3) ものが水にとけたとき、とけたものの重さは、(⑤)。

①	②	③
④	⑤	

○ものが水にとける量について説明しています。

- (1) 食塩もミョウバンも、水にとける量には限度があります。水にとける限度の量は、食塩とミョウバンで(⑥)。
- (2) 食塩は、水の温度を上げると、とける量が、(⑦)。
ミョウバンは、水の温度を上げると、とける量が、(⑧)。
- (3) 食塩もミョウバンも、水を(⑨)させると、とけていたものを取り出せます。ミョウバンは、水の温度を(⑩)と、とけていたものを取り出せますが、食塩はほとんど取り出せません。

⑥	⑦	⑧
⑨	⑩	

○電磁石について説明しています。

- (1) かん電池の数をふやして、コイルに流れる電流を(⑪)すると、電磁石の力が強くなります。
- (2) コイルのまき数を(⑫)すると、電磁石の力が強くなります。
- (3) 電流の向きを逆にすると、電磁石のN極とS極は(⑬)。
- (4) モーターは、(⑭)を利用したものです。

⑪	⑫	⑬
⑭		

①小さく ②とける ③水よう液 ④なくなりません ⑤変わりません ⑥ちがいます ⑦ほとんど変わりません
⑧ふえます ⑨じょう発 ⑩下げる ⑪強く ⑫多く ⑬逆になります ⑭電磁石